



カトリック六甲教会 教会報

2009

2

No.446



目と足、腹と手

・Volunteer 活動にかかわりましょう・

J.マシア神父

わたしたちキリスト者はボランティア (Volunteer) 活動にかかわるとき、信仰から動機付けを得ますが、その原点はイエスが語った「よきサマリア人のたとえ話」に見出され、その中でイエスが説いた隣人に対する思いやりを学びます。そしてそのイエスの言葉から刺激を受けるわたしたちは「だれが隣人なのか」ということを問うよりも、「自分が隣人になるように」努めます。

ルカ福音書にはこう書いてあります、「ある律法の専門家がイエスを試そうとして、『導師、私の隣人とは、誰でしょうか』と尋ねました。イエスはこたえました。『ある人がエルサレムから下っていくときに、追いはぎに遭い、服を剥ぎ取られ、傷をおわせられ、半殺しにされた。たまたま、ひとりの祭司が同じ道を下ってきたが、その人を見ると、道の反対側を歩いて行った。ところが、サマリア地域の旅人は、そこにさしかかると、その人を見て、はらわたをつき動かされて、近寄って、傷口にぶどう酒とオリーブ油をそそぎ、自分の口バに乗せて宿屋に連れて行って、介抱した。翌日、お金を宿屋の主人に渡し、『この人を頼むから』と言った。さらに、イエスは『この二人のうち、追いはぎに遭った人の隣人になったのは、誰だと思ふのか』と問いかけた。律法の専門家は、『その人の痛みを分かって、行動に移した人』と言った。そこで、イエスは、『あなたも行って、同じようにしなさい』と言った」。

これはボランティア活動の基本を表す話だと言えましょう。それを四つのキーワードで表しましょう。つまり、「目と足・腹と手」です。

- ・目とは弱い立場におかれている人を人として見る目をもつことです。言い換えれば、差別なしに人を人としてみる目です。
- ・足とは立ち止まる足です。というと、通り過ぎないで自分を必要としている人から逃げないことです。
- ・腹とは他人の痛みを共にすることができ、はらわたを突き動かされることです。
- ・手とは助けるために手を貸すことです。私たちはそのように人のためになりたいものです。

尚、ボランティアとは何かと議論するよりも、理屈ぬきに助けるために携わることです。この姿勢で今の世界的な経済危機のため困っている人を助けるように 2009 年 1 月 13 日に日本カトリック司教たちが出したアピールに耳を傾けたいです。司教たちは次のように訴えております。



善きサマリア人 (レンブラント)

「わたしたちに何ができるか、教区・小教区・修道会・信徒の団体で考えていただきたくこのアピールを出すことにしました。残念ながらいまだに失業者や路上生活者に対する差別偏見は根強く残っています。今回の派遣切りなどによる失業者の問題が顕在化する以前から、働きたくとも職がなく路上生活を余儀なくされていた人々を「怠け者の自己責任」として切り捨てる風潮がありました。しかし、野宿せざるを得なくなった状況はどちらも同じであり、合わせて支援しなければなりません。

去る12月、世界人権宣言発布60周年にあたって、日本の司教団は人権メッセージを発表しました。「(人権についての)今日の危機的局面を打開するためには、そのすべての要因を一つ一つ根気強く取り除いていく必要があります。そのためにわたしたちは、貧しく弱い立場に追いやられ、大切な人間関係を断たれてしまっている人々、人間らしい生活が損なわれ、あるいは妨げられている人々の側に立って、この世界を見ていかなければなりません。」との呼びかけに今こそ応えていきましょう。

すでに前からその援助に積極的にかかわってきた六甲教会はこれからもその社会活動を生かすにつづけますように励ましたいと思います。



信徒の教会づくり

私の思い出

沖原

私が広島のかまぼこ教会から六甲教会に移ったのは昭和27年であった。当時の御聖堂は、レジデンス1階東の大部屋であった。御ミサは木の床に座布団を敷いて与りました。和やかな感じでした。

そのうち、旧聖堂の建築が始まりました。建築会社の社長さんが色々と工夫している姿も思い出されます。大体完成して、御ミサも始まりました。そして間なしにドイツから鐘が送られてきて、屋内ポーチに鋤と一緒に飾ってありました。私も何回か、見る度に叩いてみました。しばらく経って、近所から「鐘がやかましい」と苦情があった由、私も責任を感じました。(現在の、教会入口南側の鐘楼は旧聖堂からのものです。)



また、聖堂内の備品のほとんどすべてがメルシュさんの製作で、椅子・机・跪き台が一体となった祈り台は、昔の六甲学院の教室の机を思い出しました。頑丈で狂いがなく、美しいと思います。(これらの作品は、今は北須磨教会などに行っているようです。)

旧聖堂の北西部に少し離れて藤棚があり、その下に長椅子も備えてあり、よい休憩所でした。私も利用しましたが、六甲学院の放課後、生徒が聖体訪問に訪れて、その付近で遊んでいたのを思い出します。

この聖堂も40年近く経つと、雨漏り、シロアリ被害などの話しが出始め、建て替えることになりました。その間、聖堂外部に支柱を建てかけて、危険に備えました。阪神大震災のとき、聖堂が心配だったので見に行くと無傷だったので安心しました。

昭和30年ごろ、六甲教会でもヴィンセンチオ会を始め、今は亡き木山さんに会長をお願いしてしばらく活動していました。当時、クノール神父様のご指導で、毎日曜日9時のミサ後、“かまぼこ”建物で聖歌隊の練習が行われていました。私も誘われて仲間に入れてもらいました。合唱について殆ど知らなかったのですが、お陰様で合唱のよさ、面白さを味わい、音楽の視野を大きく広げていただき、今でも感謝しております。また、神父様がドイツへ帰られた時、教会信徒の好きそうなミサ曲などをお土産として持ち帰って下さったことは嬉しい思い出です。



かまぼこ舎で聖歌の練習

昭和 52 年頃から、小教区評議会が始まりました。武庫神父様の御指導のもと、公会議の精神をふまえて、教会活動を組織的に、聖職者（シスターを含む）と信徒が協力し合っていくもので、現在と同じです。協力して下さった多くの信徒さんに感謝しております。また私自身も勉強させていただきまして有難かったです。

平成 2 年末頃、神父様から墓地委員を頼まれました。それまでは 1 人か 2 人でやっていたのですが、新委員は 3 名（三木氏・千原氏・沖原。途中、三木氏の代わりに山田氏が加わる）でした。仕事分担はやっているうちに自然と決まりました。墓地受付販売、設備、対外折衝。忙しいときは全員で当たりました。墓地は、終戦後、神戸市から借用した勝岡山を削って、昭和 42 年頃造成されました。ところが、工事が東方に進むにつれて岩盤が硬くなり、また信者数から墓地の需要は既造成地で十分だろうというので、東側は長峰霊園協議会に譲りました。その後も信者需要が少ないので墓地北西の一部を協議会に譲りました。その後気づいたのですが、これらの譲渡によって教会は感謝もされましたが、与え易いという印象を協議会が持ったようでした。



(1956 年 2 月 19 日長峰墓地)

一応東側の工事も終わり、平地になりました。その時、建築会社の社長が「境界線を壊したから、最上部（今の教会墓地の最も上の場所）の一部を譲りましょう」とその場所を示してくれました。この案が使い易くなるので、神父様も承認して下さいました。花岡氏には本当に感謝すると共に世間知らずの私にはよい勉強になりました。この最上段の測量は本下氏がやって下さいました。感謝

致しております。（この場所の北端に共同墓地ができました。）

また、新契約書は赤木氏にお世話になりました。ありがとうございました。

三日月会は、昭和 60 年頃、武庫神父様の提唱で始まりました。最初は 70 才以上の希望者が集まって月 1 回「老人会」を開こうということだったようです。有志がお菓子を持ち寄るようになり、それが制度化されて現在の毎回 300 円の会費になりました。毎回神父様を囲んでの座談会でしたが、そのうち、神父様がスライドを始められたようです。材料は、年寄りの生活や聖書に関するものでした。私は平成 7 年入会しました。その後 3 年程経って、私がお世話させていただくようになりました。武庫神父様が亡くなられてからは、多くの神父様をご指導して下さいました。その後、ヨンパルト神父様をご指導して下さいるようになりました。ヨンパルト神父様著の「生きる」を毎回輪番者を中心にして勉強することにしました。また唱歌も取り入れてみました。お誕生日祝いのはがきも発送し始めました。これらは役員の提案でした。これすべて神父様、役員、会員の皆様の御協力のお蔭でできたことで、有難うございました。

今は馬場氏と交替して、スライド、グレゴリアン聖歌で皆さん楽しく参加しておられます。



現在の「三日月会」の集り

広報部より

広報部製作の「2009 年度カレンダー」及び「六甲教会創立 60 周年記念絵八ガキ」は、まだ在庫があります。（いずれも 100 円）ご入用の方は事務受付にお問い合わせ下さい。



みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。

同好会だより「聖歌研究会」

つげ 洋一

聖歌や宗教音楽により親しもうと聖歌研究会が発足しました。昨年8月の「平和旬間礼拝」で歌ったメンバーが中心になって立ち上げました。「平和旬間礼拝」は毎年、近在のプロテスタント教会と連携してエキュメニカルに行われています。昨年の礼拝ではアッシジのフランシスコによる「平和の祈り」(高田三郎・曲)を歌いましたが、今年はバッハのロ短調ミサから「ドナ・ノビス・パーチェム」(我らに平和を)を歌いたいと思い、その練習をぼつぼつと始めています。そしてこれ以外にも典礼聖歌、カトリック聖歌、プロテスタントの讃美歌なども歌っています。練習は現在のところ不定期で月1～2回。指導は三浦優子さんです。一緒に歌ってみたいという方は下記(詫洋一)へご連絡下さい。

TEL 078-881-6828 又は 090-3714-1882

アドレス：mariazio@w7.dion.ne.jp(パソコン) 又は bon.koroku@ezweb.ne.jp(携帯)

第13回囲碁・将棋大会を終えて

同好会世話人 武田

昨年11月22日(土) 囲碁(16名)・将棋(3名)計19名で優勝を競い合いました。優勝は囲碁の部・阪東さん、将棋の部・折川さんでした。今大会は出場者の減少で

盛り上がりには欠けたようです。しかし、その中でも虎視眈々と優勝を狙っていた桜井神父は残念ながら4位。今回、最有力候補・浅沼さんが欠席(過去5回優勝)したのが残念です。年々皆さんの腕も上がり誰が優勝してもおかしくない大会だったと思います。将棋の方は少人数のため迫力にかけていました。(13回大会に参加の皆さん)

次回にはメンバーを増やしたいと考えております。

昨年9月より初代世話人、山田啓之助氏よりバトンを引継ぎました。大会の準備、会場設営、出欠の有無、食事の手配など、色んな面で大変ご苦勞をお掛けしました。この紙面を借り、お礼申し上げます。



(真剣に試合に望む参加者)





青年会クリスマス



村田

2008年12月22日、青年会主催のクリスマス会がイグナチオホールにて行われ、40人以上の若者が集りました。朝は肌寒く、雨も心配されていましたが、会が始まる17時にはキラキラと星も輝き、まるで私たちを教会へと導いているかのようでした。

いつもは青年会のみで行われているクリスマスですが、今年は婦人会や壮年会、教会学校リーダー、そして、普段はなかなか教会に来る事の出来ない方々もお招きし、美味しいお食事と楽しい会話と共に世代間の交流を深める事ができました。ビンゴゲームでは、思いがけないプレゼントに参加者全員ガッツポーズ！！中村真理さん・前田麻美さんによる演奏、井川さくらさんによるジャズピアノ演奏もあり、美しい演奏に癒されながら、笑顔の絶えない時間を過ごすことができました。また、この日は会が始まる前に参加者全員に1つずつホッカイロを配布し、ホール内では暖房を使用せず過ごして頂きました。普段は温かい部屋で当たり前のよう生活している私たちですが、路上では寒い生活を余儀なくされた方々が沢山います。その方々の気持ちに少しでも近づきたいと思い、初めて試みました。少し寒いな、と感じながらも、色々な方と親睦を深める中で、本当の温もりを感じ、心がポカポカしました。

最後に片柳神父からお祈りと祝福を頂き、心もお腹も満たされて、幸せな気持ちでクリスマス会を終えることができました。準備して下さった皆様、参加して下さった皆様、そしてこのような素晴らしい時間を下さった神様に、心から感謝致します。

教会学校 餅つき

阿部

教会学校3学期は、1月10日の餅つき大会で始まりしました。寒い日でした。でも子供たちは、元気に大勢集まってくれました。

臼は、早くから洗って、お湯をはって藤棚の下に据えられ、お台所では前日から洗って水につけて置いた20キロあまりのもち米が次々と蒸されて行きます。砂糖醤油、海苔、きな粉、大根おろしなど、これはビニールシートを敷き詰めたイグナチオホールに並べられます。

子供たちは縦割りで6班に分かれ、今年は初めて中高生会も参加、サブリーダー格で各班に加わりました。

1班は10人あまり、順番に藤棚の下へ、待っている班は第一会議室でビデオを見えています。教会学校の行事をいつも助けて下さっている、中出さんご夫妻や、教会の頼もしい助っ人のみなさんのおかげでスムーズに進行して行きました。子供たちは、全員10回ずつ杵を振り上げます。一人残らず餅つきに参加するのです。杵が重くて、臼の縁を叩いてしまったり、10回のうち1回しかうまくつけなかったとか、めっちゃ寒いとか、わいわい言いながらついていき、つきあげられたお餅は上々の仕上がりです。

つき終わった班は、イグナチオホールに移動、待ちかまえたお手伝いのお母さんたちとちぎって丸めて行きます。いよいよ、食べられるとなったら、きな粉まみれの海苔を巻いたり、大きなのを3個も取って、砂糖醤油をたっぷり掛けて満足そうに平らげたり、そうかと思うと砂糖醤油が甘すぎて太りそうと言う女の子がいたり、それはもう大騒ぎです。中には嫌いと言う子もいましたが、ほとんどの子どもがおいしそうにいただいております。神父様を始め、受付の方々や、いろいろな方にも食べていただきました。

教会学校の年中行事の中でも、餅つきはみんなが楽しみにしているものの一つです。今年もきっとみんなの心に思い出を一つ刻んだと思います。ご協力いただいた皆様に、心から感謝いたします。



「阪神淡路大震災祈念」の集会祭儀を行うにあたって

大倉



(信徒による司式) 今年阪神淡路大震災からまる 14 年を迎えました。6400 人以上の方が亡くなり、1 万人以上の重傷者、また全壊した家は 10 万棟を超え、15 万棟近くの家が半壊しました。しかし、時が経つとともに、私達の記憶から少しずつ忘れ去られているかも知れません。大きな被害を受けたこの日の祭儀をどうするのか、と桜井神父様は集会祭儀司式者の集まりの場で問いかけられました。司式者のなかに、共同体信徒の方が 4 人亡くなっているのだからごミサを、という声もありました。結局、数人の方に震災の体験を語っていただいて、集会祭儀を行うことにしました。人の体験を聞くことで、自分の体験を思い起こし、幸いにも震災をさけられた方はその思いを分かち合うことで、共同体として一つになり、亡くなられた方への追悼、助けの手を差し伸べてくださった多くの方への感謝。そして答唱詩編で歌ったように“死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない。わたしと共にいてくださる(詩編 23)” 神様への感謝、今も苦しんでおられる方々への奉仕、未来への希望となれば、神様に捧げる共同体の祭儀になるのではないのでしょうか？そのような思いで、集会祭儀を選びました。当日は 50 数名の方々が集い、心に響く静かな祈りの時になりました。

「阪神淡路大震災祈念」集会祭儀に参加して

荒川

14 年前の阪神大震災の追悼集会祭儀が 17 日六甲教会で執り行われた。当教会で 4 人の方々が尊い命を失われた。

福田さん、平野さん、志水さんが当時の凄まじいご体験を語って下さった。ご病気の奥様を気遣われながらの単車での活躍をなさった福田さん。道行く人々(信徒による司式)の協力を求めながら、瓦礫の下から近所の人々を救出なさった平野さん一家。病身のご主人やご高齢のご主人のお母様を庇いながら焼けゆく街での健気な日々を過ごされた志水さん。それぞれのお話に息を呑む思いで聴き入った。辛い体験を乗り越えられた 3 名の方々のその後も続けられている教会でのご奉仕のお姿から、矢張りいざという時に人は日頃の生き様を示されるのだとの思いを強くした。

当教会でも皆様方が精一杯、それぞれの立場で頑張っておられた。若い人達と共に細やかなお心配りをなさりながら動き回っておられた松村神父。折川さんご指導のもとに作った“炊き出し”を平野さんご一家の避難先である小学校の教室へ届けた時の事、ご一家のお人柄のもとに集った救援物資は部屋の方々に分け与えられ、物心両面に潤ったその部屋は明るく温かい雰囲気満ちていた。一つの家族の影響力の大きさを感じた。また、ご家族救出のため足を骨折し、松葉杖ながら川越さんは何時ものように力強いリーダーシップを発揮しておられた。このようなことが特に印象に残っている。

あの頃のことを思い出すと、どれだけ多くの人々に支えられ、助けられ、励まされてきたかを感謝と共に思い出す。たまたま九死に一生を得ている多くの家族や自分の命の不思議さに驚いている。



3 人の信徒が切々と自らの震災体験を語られ、参加者に感動を与えました。

集会祭儀に参加された人たち。

各部紹介

中高生会

みなさんこんにちは。中高生会です。

中高生会は専門部会の一つに位置づけられる、中学生、高校生を対象とした集まりです。新聞回収、クリスマスコンサートなどの活動でご存知かと思います。

中高生会の目的は、みんなで集まり、お互いに仲良くなり、信仰を深めていくことです。普段のクラスでは、聖書の御言葉、釜ヶ崎のこと、現代社会の出来事を学ぶことや、分かち合いなどを行っています。年間を通して、「キャンプ」、「錬成会」、「クリスマスコンサート」、「チャリティーバザー」などの様々な行事を行っています。日曜日に教会に集い、活動の中で社会、友人、自分自身のことを考える、また中高生達が主体となって活動をし、みんなで協力する中で、彼らの大切な人格形成の時期にプラスになっているのではと思います。長期的な視点にたてば、信仰教育の一端を担うと同時に、高校卒業後にリーダーとして力をかしてくれる若者を育てる器としての役割もあると考えております。



(釜ヶ崎クリスマスコンサート)



(08、サマーキャンプ)

今、問題となっているのは来年度以降の中高生会リーダーの問題です。中高生達が主体となるとはいっても、やはりリーダーが少ないといろいろな活動を続けることが難しいと思っています。今後、教会のみなさまに支えられながら、それに甘えるだけでなく今の運営の形を工夫しながら、未来の教会を創っていく糧となれるよう中高生、リーダー、一丸となって歩んでいきたいと思っています。今後とも温かく見守っていただけますよう、どうぞよろしくお願いたします。(青木)

主任司祭の地平線



今回は私事になりますが、4月の復活祭後、桜が散る頃でしょうか、東京の麹町・聖イグナチオ教会に助任司祭として転勤するように命ぜられました。私はイエズス会の修道者として長上からの派遣命令を神のみ旨として受け取りますが、此の世では出会いと別れ、その喜びと哀しみを捧げながら、神様に向かって歩いて行く“旅びと”なのだと実感しています。

しかし、日本一素晴らしいこの六甲教会共同体から異動することは、何処に行こうとも、世に言う左遷(?)ですね。或る方は「ガリラヤ(地方)からエルサレム(江戸の都)に登るのでしょうか」と冗談風に言われましたが、主の十字架の苦しみに近づいて行く意味では、確かにそうかも知れません。40～50代前半に同じ敷地内のイエズス会本部で15年程働いた懐かしい場所ですが、教会はと言えば東京のど真ん中に位置する国際的なマンモス教会であり、大中小の聖堂では主日に各国語のミサが捧げられ、平日でも5回のミサと「ゆるしの秘跡」、病んでいる方々のためにカウンセリング室や地下には大きな納骨堂と祭壇・霊安室もある超多忙の教会ですから・・・。

六甲には2000年3月に赴任して以来9年間、皆様には大変お世話になり、本当にありがとうございました。生まれ育った故郷の教会であり、多くの方々と嬉しい出会いや交わりを通して幸せな教会生活でしたが、皆様には私の弱さや怠慢、音痴や下手な冗談などよく我慢して下さいました。お一人お一人に心からのお詫びと感謝を申し上げます。お別れも神の計らいであり、お互いの成長につながることを確信しています。六甲教会の方々の深い信仰と信徒奉仕職の優れた面を伸ばしながら、この救いの共同体が神戸の地で広がってゆくようにと祈っています。新年度4月以降、阪神大震災前後に当教会で献身的に働かれた松村信也(のぶや)神父(現在、山口教会主任司祭および幼稚園園長)が新しい主任司祭として赴任されることをお知らせ致します。

各部だより

☞三日月会

2月 1日(日) 三日月会喫茶

9時のミサ後 ～ 13時

イグナチオホール

16日(月) 例会 14時 ～ ミサ

講演「祈り」マシア神父

ビデオ鑑賞

22日(日) 12:30 ～ 定例会(第5会議室)

内容: 分かち合い等を予定

※ 2/1(日)に予定しておりました「日韓青年交流会」は事情により1/25(日)に行いました。

☞青年会

2月 8日(日) 12:30 ～ 定例会(第5会議室)

内容: 2009年度の役員候補の選任を予定しています。

☞社会活動部

2月 2日(月) 10:00 Fr. マシアの勉強会

「聖書と生活(ヨハネ福音書)」を読む。

今年度、Fr. マシアの勉強会は2/2を持ちまして終了致します。

〈お知らせ〉

★★ 堅信準備のお知らせ ★★

片柳 神父

5月31日(日)にカトリック神戸中央教会で行われる合同堅信式に向けて、六甲教会でも準備を行うことになりました。堅信を受けることで、キリスト教への入信が完了します。堅信の対象となる中高生は、下記の通り行われる準備会にご参加下さい。会場は、いずれも六甲教会第4会議室です。

2月22日(日) 10:15-12:00

「堅信ってなに？」

3月22日(日) 10:15-12:00

「信者として生きていくために」

4月26日(日) 10:15-13:00

「教会共同体と共に」

(昼食会を行います)



尚、六甲教会での準備会が終わった後、5月24日(日)カトリック神戸中央教会にて合同準備会が行われます。

社会活動部より

2/4(水) 10:00 手芸の集い 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。

14(土) 10:00 炊き出し(イグナチオお台所) 毎月第2土曜日

小野浜グラウンドにて配膳やおじさんたちのお話相手だけでもOKです。

15(日) 9時ミサ後の「手作りコーナー」はお休みとなります。

3/6(金) 社会活動部連絡会 初金ミサ後開催

14(土) シナピス神戸静修会 明石教会にて開催予定。





看板



「共同墓地の祭壇」

下記の工事を終了いたしました。

- 看板「墓地をきれいにしましょう」5枚を設置しました。
- 共同墓地の祭壇を設置しました。

墓地に関してお気付のことはなんなりと墓地委員会、又は受付までお話しください。



📖 図書紹介

『京のキリシタン史跡を巡る』

(杉野 栄著 三学出版 1200円)

『これだけは知っておきたい キリシタン』

(山我哲雄著 洋泉社 1400円)

ご紹介する2冊の本は、教義の理解や思索を深めるための高尚なものではありませんが、私のように洗礼を受けて以来40年以上、不勉強のまま過ごした怠け者にとって、楽しみながら気軽に読めて、なおかつ乏しい知識を補える、まさに「目からうろこ」的な書といえるものです。

『京のキリシタン史跡を巡る』は日本図書館協会選定図書で、帯の推薦文はキリシタン関連の書物には珍しく、臨濟宗妙心寺派春光院住職が寄せられており、「五百年前の都の異文化も、心ある人がいて、初めて、ものは残り、今現在、人はそれにふれることができます。」とあります。

目次を開くと、二十六聖人出発地・フランシスコの家・キリシタンとお茶、といった項目も勿論ありますが、東寺・大徳寺・十念寺・椿寺・本能寺等々、まるで京都の古寺・名刹の案内書の様相を呈しています。しかし、著者あとがきに「京に住むようになり、・・・圧制の時代になお、神への信頼を生きようとした町衆の真相を知る必要に迫られたのです。」とあるように、れっきとしたキリシタン研究書です。しかもほとんどのページに添えられた美しい写真を眺めるだけでも楽しく、ちょっとした余暇の時間に気軽に読める良書です。

『これだけは知っておきたい キリシタン』は、タイトルだけ見れば少々俗っぽい本ようですが、著者は専門が聖書学、キリシタン学で、旧約・新約聖書に関する著書も多数ある大学院教授であり、はじめに取り組みされた読みやすい解説書です。各章のタイトルはこの本の性格上、「東西教会の分裂とキリシタンの中世」「宗教改革と近世・近代のキリシタン」といったやや固いものですが、これも挿絵や図表がふんだんに添えられ、それぞれの項目、たとえば「新しい契約とメシア思想」や「ローマ・カトリック教会と東方正教会」など、すべて見開き2ページにまとめられていて、とても読みやすい構成になっています。

また、単なるキリシタン史の歴史解説書に終わらず、第5章「キリシタンの現在」では、現代社会の直面する、戦争・貧困・抑圧・環境、諸教会の一致や「神無き現代」等に関する問題まで取り上げ、最後の第6章「キリシタンをさらに理解するためのQ&A」には「キリシタンがテーマの文学や映画は？」など、日常的な興味にも応える内容も用意されています。

(石光)

2月の予定

日	曜	教会暦	教会行事
1	日	年間第4主日	結婚準備セミナー開始(22日まで)
2	月	主の奉献	
5	木	日本26聖人殉教者	
6	金	聖アガタおとめ殉教者	初金 7:00 10:00 ミサ
8	日	年間第5主日	17:00 海星病院集会祭儀
10	火	聖スコラスチカおとめ	
11	水	世界病者の日(ルルドの聖母)	
14	土	聖チリロ隠世修道者 聖メトジオ司教	9:30 拡大小教区評議会
15	日	年間第6主日	病者の秘跡(全てのミサで)
16	月		14:00 三日月会ミサと例会
22	日	年間第7主日	10:15 堅信準備の勉強会 17:00 海星病院集会祭儀
23	月	聖ポリカルポ司教殉教者	11:00 ベビーとママの集い
25	水	灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)	7:00 10:00 19:00 ミサ (各ミサ中に灰の式)
28	土		10:30 哲学講座

広報部員のつぶやき

1月25日「聖書と典礼」の和田神父の記事「パウロの回心」に目がとまる。ダマスコ途上のパウロに「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」とイエスの声。パウロは人生を180度変えてしまう一大異変が起こり回心する。先日見た映画「道元・ZEN」のせいであろうか。「道元の発心」(仏教では回心を「回心(えしん)」「発心」という。)と「パウロの回心」の違いに心が動く。パウロの回心は外部から、道元の発心は彼自身の内部から生じたものである。道元の発心は求道の心。厳しい修行を伴い、誰にでも出来る事ではない。道元は自己の経験に裏打ちされた人の道を説いた。キリスト者には「山上の垂訓」がある。心が萎えいでいる時、傷ついた時、悪意に苛まれた時、蔑まされた時、「山上の垂訓」に励まされる。深い有難さを感じ、その有難さに深い静けさを感じる。

“ にごりなき こゝろの水に すむ月は 波もくだけで ひかりとぞなる ”(道元)

イワシ雲

<p>教会報3月号の発行は、3月1日(日)です。 編集会議は2月22日(日)です。 記事原稿は、2月15日(日)正午までに信徒会館 受付へご提出願います。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21</p> <p>電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6</p> <p>発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父</p> <p>編 集 広 報 部</p>
---	---